

趣旨説明

蘇州は中国で杭州とともに並称され、風光明媚の地です。この地では古代から人材が輩出し、その中には書物を読み、文章を記し、書画を嗜む教養ある人物も少なくありません。今回のシンポジウムでは登壇者が文人と考える人物を取り上げることにしました。その文人を中心として他の文人との交流について論じること、これを共通のテーマとします。古代からの全時代にわたる文人をすべて取り上げるのは限界もあり、時代としては南宋から清代にかけてとなります。蘇州の全体像としては中国で出版された『蘇州通史』（蘇州大学出版社、2019年）を大いに参考としたいと思います。

このシンポジウムでは愛知大学の教員（人文社会学研究所所員兼務）ばかりでなく、学外からも中国哲学・文学の専門家を招聘し、発表・司会・コメンテーターとしての登壇をお願いしました。このようにシンポジウム自体が学术交流の試みとなっています。オンライン参加も可能ですので、ご興味とご関心がおありでしたら、ぜひともご参加ください。



登壇者

- | | |
|-------|---|
| 大木康 | 東京大学東洋文化研究所教授 / 中国文学 明清時代の文学 |
| 吉田純 | 名古屋大学大学院人文学研究科教授 / 中国哲学 清代學術思想史 |
| 東英寿 | 九州大学大学院比較社会文化研究院教授 / 中国古典文学 歐陽脩を中心とする唐宋八大家の研究 |
| 種村和史 | 慶應義塾大学商学部教授 / 中国古典文学 詩経解釈学史 |
| 宇佐美一博 | 愛知大学名誉教授 / 中国哲学 漢代思想、春秋学 |
| 木島史雄 | 愛知大学現代中国学部准教授 / 中国古典文献学 古典芸術鑑賞論 |
| 三野豊浩 | 愛知大学文学部教授 / 中国古典文学 唐宋の詩と詞 |
| 緒方賢一 | 愛知大学文学部教授 / 中国庭園文化論 |
| 臼田真佐子 | 愛知大学文学部教授 / 中国語学 清代古音学・『説文解字』 |

シンポジウム運営協力

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 齊藤正高 | 愛知大学・岐阜大学非常勤講師 / 中国哲学 明末清初、方以智の思想 |
|------|-----------------------------------|